- and in land, naval and acrial warfare. Ш. That the Commission shall be at liberty to request assistance and advice from experts in International law
- Those Powers shall thereupon confer as to the acceptance of the report and the course to be followed to secure the That the Commission shall report its conclusions to each of the Powers represented in its membership.

consideration of its recommendations by the other civilized Powers

-526-

第三節 毒瓦斯分科會議事經過

第一項 第一回分科會

十一月三十日午後四時汎米會館ニ於テ開催各國列席委員左ノ通

島海軍々路大佐 川騎兵 口陸軍少將 П

木

出席委員

久 授

ス

衂

ーソロミユー 大佐 英

國

教授

阈

授

ペンテマリ ー

中佐

伊

或

Col. W.H. Bartholomew

I.t. Col. T. C. Zanetti Biug. Gen. Amos A. Fries

-527-

Prof. Edger F. Smith

Prof. Moureu

Prof. Mayer

Nala Pentimalli

「フリース」少將ノ發議ニ依リ「スミス! 教授ヲ議長ニ「ザネチー」中佐ヲ「セクレター 」ニ推薦ス

機委 限員

二、議長ハ米國委員ハ何等訓令ヲ受ケ居ラス各國委員中全權ヨリ訓令ヲ受ケヲル者アリヤト問ヘルニ對シ一同訓令ヲ受ケ 居ラスト答フ『ムーゥ--」教授ハ吾等ハ先ツ委員會ノ目的ヲ知ルヲ要ス吾等ハ法律ヲ解スル者ニ非サレハ單ニ諮詢事項 了解ナカルヘク此委員會ノ意見ヲ徴シテ後決スヘキモノト思惟スル旨ヲ述ヲ ニ對シ解答スルノミナルヘシト述へ「マイエー」教授ハ戰爭法規委員會ハ法律家ョル成ル者ナレハ毒瓦斯其物ニ就テハ

=

議長 ν A シト述へタルモ午後五時ニ到リテ未タ訓令來着セス散會ス 昨二十九日米國陸軍委員會議ニ於テ本問題ニ關シ討議アリ 本日午後四時迄ニ何等カ訓令モ來ル 曲 ナレハ暫ク

之レ亦豫メ討議スへキ議題ヲ定メサリシ結果ョ ナリ將來何物ヲ討議スルャ不明ナリトスルモ斯ル一方ニ偏セル各國ノ委員ヲ以ラ討議ヲ進メンコト頗ル困難事トスヘシ 毒瓦斯ノ大家ナルカ如シ之ニ反シ英ノ「バ 米國「フリース」少將ハ米國陸軍ノ毒苑斯作戰部長ゴザネチー」中佐ハ目下「コロンピア」大學化學教授ニシテ之レ又 議長二推薦サレタ 委員會ノ議題ヲ準備 ス 「スミス」教授ハ米國化學協會長ニシ + 米國委員カ 何等ノ準備モ ーソロミユー」大佐、伊ノ「ベンテマチー」中佐ハ何等毒瓦斯ノ智識ナキ者 リ生セシ不始末ト思惟ス ナク慢然委員ヲ會同シ時間ヲ空費セル不準備不整頓驚クノ外 テ毒瓦斯ノ泰斗タリ佛國委員ノ兩教授モ亦第一流ノ斯専門家 ナ

第二項 第二囘分科會

十二月六日午前 九日汎 米會館ニ於テ開 催 各國 國列席委員 ٠٠ 第一 [Ē] = 闹 'n 但 シ 佛 國 -1 1. 1 ラ L__ 教授缺席英國委員補 佐

-528-

議長ハ委員會ノ 討議權限 ニ關シ米國全權ノ訓 | 令ヲ請ヒシニ議長ニー任スト 1 解答ヲ得 12 y 告

劈頭毒瓦斯全般ニ關スル討議ノ提案アリシモ之ヲ後廻シト 次審議スルニ決ス シ戰爭法規委員會ヨリ本委員會ニ質問シ 來 v ル左記七項ヲ 逐

毒瓦斯ハ其ノ效力上戰鬪ノ他ノ手段ト類似スル武器ト見做シ得

毒瓦斯ノ物理的、 化學的及生理的效力ヲ其ノ使用ニ關スル協約的制限 ノ根據ト シ テ採用 ス n :: ŀ 可能ナリ 4 否

第三 毒瓦斯ノ活用ヲ戦鬪員ノミニ限定スル トカ専門的見地ヨリ可能ナリャ否

第四 平時ニ毒瓦斯ノ研究及製造ヲ防止スル コト専門的見地ヨリ可能ナリ v 否中

第五 平時ニ毒丸斯ノ研究及製造ヲ制限スル コト専門的見地ヨリ可能ナリャ否ヤ

第六 平時ニ毒瓦斯ノ研究及製造ヲ制限スル _ ト可能ナリ j. シ其ノ研究及製造ヲ監督ス ıν 3 ト専門 的ニ可能ナ y ۲ 否

第七 スルコト可能ナリヤ 都市ニ 對シ致死瓦斯ノ使用ヲ禁止スト (第二節第三款參照) Z つフカ 如き瓦斯 效力上 1 根據ヲ以テ瓦斯使用制限 1 條約的基礎ヲ 設定

Ξ 右二 關スル逐條審議ノ結果左ノ通(第二節第五款囘答參照)

- (1) 第一項ニ闘シ先ッ日本委員ノ意見ヲポメタルヲ以テ「日 兩國共佛國委員ニ同意セシカ爲三對ニトナリ他ノ武器ト同一ノ武器ナリトスルモノ多數ヲ占ムル結果トナレ 武器ト同一ノ物ト看做スヲ得ス反對論者ハ毒瓦斯ニ對シ州常防禦ノ方法ヲ講セハ爾ク慘酷ナラスト說クモ毒瓦斯研究 時減殺スルヲ目的トスルモ毒瓦斯ハ之ニ對シ對手タル戰鬪員ヲ慘酷ニ殺害スルヲ目的トスルモ ニョリ主トシテ主義ニ關シ述ヘントス蓋シ火砲及小銃彈ハ對下タル戰鬪員ニー時的損傷ヲ與ヘ以テ其ノ戰鬪能力ヲ一 要セストシテ我委員ノ説ニ反對シ仲國委員ハ將來ノコトモ勿論顧慮セサルヘカラスト說キ我委員ニ同意セシカ英米 將來ノ進步發達ニ想到セハ戰慄スルモノアリ」ト說キ佛國委員ハ此ノ問題ヲ討議スルニ際シ將來ノ發達ヲ顧慮スル 木二他 列國ノ如 ク瓦斯使用 ノ充分ナル經驗ヲ有 ノナレハ全然之ヲ他ノ セサ
- <u>n</u> 如何 毒ノ瓦斯ヲ發生シ致死的效果ヲ來スモノアレハナリ 第二項ニ脲シテハ下ノ如キ意見多數ヲ占ムルニ至 程度迄ラ限界トシ之ヲ所謂毒瓦斯ト認メ之ヲ根據トシ レリ即チ毒丸斯ノ中理化學的及生理學的二人體ニ及 テ協約的制限ヲ定 メン :1 ŀ ハ不可能ナリ蓋シ爆藥中有 ホス效果ノ
- (附、我委員 (ハ下) 意見ヲ發表シ置 /リ即チ 爆藥中有毒 ï 瓦斯ヲ發生ス jν Æ 1 rIV æ 其 , 生理的效果へ所詮毒瓦斯ノ

ク劇烈ナラス

シ **放**二炸裂,目的ナクシテ單二致死的效果ヲ與フル目 各國一致シ !合物ニシテ其ノ兎斯ヲ吸收スル瞬間慘酷ナル症狀ヲ惹起シ死ヲ來スカ如キモノヲ指定シテ禁止又ハ制限スルヲ得 テ誠意之カ使用禁止ヲ勵行メルコトトセハ協約的側限ノ方法ハ左程不可能ナラス卽チ炸裂ノ用ヲナササル |的ヲ以テ劇烈ナル毒性化合物ヲ使用 ス N コトヲ人道上ノ見地 ョリ ~

- (六) 第三項三就 委員ヨリ這般! 不可能ナルヲ説キ英國委員モ亦其ノ説ヲ支持セシヲ以テ『限定シ得ルモ而モ甚タ困難ナリ』ト云フニ決定 大戦ニ於テ被砲撃地域ヨリ十九吉米ヲ距ツル村落ノ住民カ毒瓦斯ニ威シ被害アリシ實例ヲ擧ケテ限定 Ŧ , 我委員ハ戰鬪員ノミニ 限定メル ⇉ ト不可能ナリ 小批井 伊米之二反對 シ限定シ得 ŀ 主張セ シ カ 佛國
- 監督可能、伊ハ量ト質(例セハ「フオスゲン、プロミン」等ノ外其ノ製造ヲ禁止)トニ就テ監督可能ト主張シ各其ノ 通り報告スルコトニ決定 (製産額)ノ制限、伊ハ製造(平時ニ必要ナルモノノミ製造) 國委員間ニ意見ノ交換アリシ 後右三項ハ 日英米ハ技術的ニハ可能ナルモ 實行上不可能ナリトシ 第五項ニ關 ニアラスヤト反覆主張セシ結果技術的見地ヨリセハ可能ナレトモ實行上不可能ナリト云フニ大體一致シテ其 意アラハ必スシモ不可能ト云ヒ張ル理由ナク又本項質問ノ意味ハ技術的見地ヨリ可能ナリヤ否ヤヲ明カニセン テ不可能ヲ説キシカ我委員 第四、第五、 第六項ニ關シ我委員ハ總テ可能ナリトノ意見ヲ主張シ各國委員ハ以外ノ面持ヲナシ種々 **小現在!法規其ノ他ヲ以テセハ不川能ナランモ新ニ法規ヲ設ケ各國共ニ眞ニ** ノ制限ハ可能ナリ ト固持シ第六項ニ關シ佛ハ量ニ就テハ 之ヲ禁止ス (ノ他各 巾 が八量 ŀ ス

-530-

ホ) 第七項ハ委員間ニ意見ノ交換ア 果アルモノ、都市ニ對シ使用スル ヲ禁スト云フカ如キハ不可能ナリ」 y シ 後 「毒瓦斯ノ效果ヲ制限ノ基礎トナス ト云フニ 一致セ 7 ト能ハ ŋ ス (i) F 如 何 ナ ル程度ノ中毒效

ノ審議ニ三時間 ヲ費シ旣ニ正午 ナ シカ更ニ毒兎斯戰一般ノ討議ヲ繼續スル ニ決シ米國側 3 リ毒尾斯ハ廢薬ス

キヤ否ヤノ問題ヲ提出シ米國委員ノ意見トシテ廢棄スヘカラサル モノトシラ左ノ理由八ケ條ヲ舉ケタリ

一、戰爭技術ニ科學ヲ適用スルコトノ一進步ナリ

二、其ノ效果ノ可能性異常ニ大ニシラ戰爭ノ勝敗ヲ決スルカヲ有ス

Its possibilities of effectiveness are too great. In it lies the power to decide wars

二、旣ニ諡般戰爭ニ於テ試用セラレ其ノ結果各國軍ハ一般ニ之ヲ採用セリ

四、他ノ方法ニ比シ非人道的ナラサルノミナラス却ヲ非人道的ノ點少シ

五、或ル國民カ協約アルニ係ラス其ノ義務ヲ忘レ此有力ナル手段ヲ用キルコト へキ惨害ニ對シ防衞スル爲平時ョリ之ニ對シ防護ノ手段ヲ準備シ置カサル ヘカラス r N = 際 シ 其 1 結果ト シテ蒙ル ~ ŧ

人類ノ幸福ニ資スル化學ノ進歩ヲ防止又ハ制限シ能ハサルノミナラス之ヲ防止又ハ制限スヘキ Æ , = r

七、毒丸斯ハ生命ヲ損失セスシテ國內ノ騷擾ヲ鎮定スル方法ヲ提供ス

(附米國委員ノ意見ハ 毒尾斯ハ適當ナル 防護假面ヲ使用スレハ左程恐ル ノ此ノ言ハ畢竟牽張附會ノ說ニ過キス) ヘカラス現在ニ於テモ旣ニ「マスタード」瓦斯ノ如キモ 如キ言ヲナスモノト思料ス然レトモ科學ノ進步ニョリ更ニ新ニ防護ニ困難ナル毒兎斯ノ製出セラル ノニ對スル完全ナル防禦ハ非常 ^ * モノニアラス = ŀ 困難ナル 一聲言セ = シ 3 鑑レハ米國委員 ルニ至ルヤ ŀ アリ 故 知 = N

八、侵冦ニ對シ經濟的準備ノ形式ヲ提供ス

JŁ. 唱フルト ハ廢薬スヘシト唱へ次ラ佛國委員ハ此ノ種ノ問題討議ノ權ヲ委任セラレアラストノ意外ノ答ヲ爲シ佛國委員ハ廢棄說ヲ 右米國提議ニ對シ議長ハ先ツ毒瓦斯戰廢棄ニ關スル各國委員ノ意見ヲ徴 ヲ認メアリ今更討議ノ必要ナキ 共ニ佛國委員ノ任務權限ニ關シ追究スル所アリ伊國委員ハ之ニ對シ毒瓦斯使用 ニ非スャ ス 〜 シ ŀ シ第一ニ我委員ノ意見ヲ問フ我委員 ハ旣ニ「ベルサイユ」 條約二禁

三五

註 長ハ呆然トシテ手ノ付クヘキナシ玆ニ於テカ英米兩國委員は語セル後米國委員ハ八日迄討議延期ヲ提議シ 個人トシテハ廢棄ニ同意セスト遁ケ紛糾裡ニ散會 既ニ意見ヲ開陳セシニ獨リ英國委員ハ何等述フルコトナク此ノ儘閉會スルハ適當ナラスト 議長カ旣ニ討議ヲ進ムルニ決セル以上之ヲ中止スル |ラレアルニ因リ獨逸國内ニ於テ之ヲ製造シ又ハ輸人スルコトヲ嚴禁ス)ト述フルヤ問題ニ新正面ヲ開キ紛糾擾然議| 對獨條約第百七十一條、 窒息性、 毒性其 ノ他ノ 尾斯及之ニ類似スル 理由ナシト迫り我委員ハ討議延期ニハ强ラ反對セサルモ日米 一切ノ液體材料又ハ 考案ハ其 主張セシヲ以テ英國委員 使用 仴 國委員 ヲ、 伊 ハ

z

ノ各ニー審 態**國委**月 関 員ル題戦

出席帝國委員意見

- (一) 戰爭法規委員會 體同様ノ方針ヲ取リ , ト認メ得ヘシ シカ米英兩國委員ハ我ト全然反對ノ態度ニ出 31 y ノ質問 七箇條ニ對スル審議 = 關シ我委員 テ佛國委員の比較的公正ノ實際的見地ョ 八毒瓦斯戰廢棄 マ月 提礎ト シテ意見 7 述 ~ 伊 ŋ 議論 國委員 Ŀ N ٨, ·Ŀ
- \equiv 伯、希へ意見、發表ヲ留保セリ然シテ此ノ軍事委員會 禁止シアルコミナラス戰爭ノ慘禍ヲ鍼少スルノ希望コ セル聯盟理事會二於ラ 八人道上ノ見地ヨリ絶對禁止ヲ主張シ伊、 ル」ニ開催セル國際聯盟軍事委員會第二回會合ニ於テ毒瓦斯使用ニ開スル國際的規定ヲ討議スル際日、佛、 ルカ爲問題ハ意外ノ方面ニ轉向シ延會トナルニ至リ佛國側ノ眞意ハ 毒瓦斯戰一般討議ニスルヤ各國其赤裸々ニ シ Ŧ 平和條約二依り使用ヲ嚴禁セル ハ斯ル重大問題ニ關シ僅ニ 白兩國委員、戰鬪員ノミニ局限シテ使用許可ヲ唱へ英國委員へ無制限ヲ説キ ľ 國ノ立場ヲ保護ス . 作 ル将來ノ戰爭ニ於テ之ヲ使用スルコトハ嚴格ニ非難スヘキモ 此ノ毒丸斯ノ使用ヲ默認スル能ハス又海牙會議ハ毒丸斯ノ使 ノ決議報告ニ對シ佛國理事 ノ間二意見ヲ變更セリ N 朋カナラ 二努义 シカ佛國委員カ 「ベルサ y. モ思ハ V 「レオン、グルジオア! 氏ハ同 上毛昨千九百二十年十月 レサ jν ニ依リ佛國モ亦禁止ヲ主 1 1 條約 四三國委員 「コプラ 時開催 ノナ 用ヲ ッ 41 セ

員 ノ態度 スル Æ ハ狡獪横暴ト非難スルニ値スヘシ ノト見得 ヘシ討議ノ形勢自己ニ不利 ١ 傾 2 ·Y 111 三討義 プ中 止ヲ提議シ之ヲ强制ス ıv 力 如 F 態度ニ出

第三項 第三囘分科會議

第三囘ヲ十二月八日汎米會館內ニ開催ス

張ノ通過ヲ計ル上ニ於テ一般討議ヲ避クルヲ利益ト認メタニ結果ニ過キサルヘシ次ヲ 議長ハ開會劈頭 、途中紛糾中止セル毒友斯戰全般討議ノ中止ヲ強制セリ此 「ヒューズ」氏ョリ本委員會ノ討議ハ毒瓦斯 ノ命令ナルモノカ果シテ事實 ト爆弾二限定スヘジト ノ命分ア ナ N y r 1 頗 ij N ۲ 鯐 'हें(シ ッ 前回討議ヲ 2 思う 7 Ü 開 衂 始

案報ニ**毒** 会構製 米域ル戦

シ度シト張ヒ此ノ米國委員ノ横暴勝手ナル司団振りニ對シ我委員へ不虧不快ノ感ニ懷キ面

議長ハ毒瓦斯戦ニ關スル米國ノ原案=提出シ速ニ戰時法規委員會ニ廻附スルノ必要ア

iv

ノ會合ニ

ラ決議

モ提案第一項 ヲ以テ本日

二州テ

一。 展 尾 於

斯

斯戰 避ケタリ四 ァ ルコ **ふ他ノ武器ト類似ノモノニシテ旣ニ世界戦争ノ武験ヲ經該戦争ニ從事セ** ٠,٠ トナレハ爭フモ小數意見ト 火砲小銑戦ト差異ナシト/原則ヲ定メ次テ毒丸斯戦ヲ承認セシメントス 國委員二於ラ米國案ヲ審議 ナリ通過ノ見込ナケレハ我委員、原案全部ヲ否認スル シ細部二修正ヲ加へ審議終了スルヤ ル各國ハ之ヲ採用セリ」ト揚ケ先 ルモノナ .=. リ此ノ點ハ英佛委員 決シ関後ノ審義ニ 加入 既二同 ツ以テ毒丸 ス ıν Œ シ 7 -533-

三、我委員へ「毒瓦斯戰將來ノ發達ニ鑑ミ 呉ノ殘虐ナル 到底之ヲ他ノ戰爭手段ト コピューズム 主義ニ於テ同意セ 以テ本提案ノ通過ヲ 國提案中ニハ同意ス 氏力毒瓦斯戰一般ノ討議ラ許サスト命令と (キ點アルモ根本主義ニ於テ見解ラ異ニスルヲ以テ乍遺憾審議ニ加ラサリシ次第 ŀ 次セラルルナラ、探決に加いル能ハス スル態度ヲ取ルヤ會議紛糾シ混亂收拾シ得サルニ至 ル理由ハ稍々了解二苦ムトコ ト陳述ヒリ伊國委員 w 同様三見 八我委員 ロナ w 得 力命令ト *:*=. ナ ķij n 意スト 災 ナ Ξ 清問 ナ V 述 リ岩ン多數決ヲ ハ 致シ へ タ 佛 110 方 N 委員 ナ 所 シ ナ Ж ソ

英國委員此 1 間 = 入リテ 調停 = 努 メ鬼ニ 角米國提案ヲ 更二審議 シ 意見ヲ 述 ラ Jν **::**7 ŧ ---折 合 Ł 11 間 延 Ku) シ 散會 Ł y 我

三三七

コト可能ナリナカラ他ノ武器ノ場合ノ如ク其ノ使用ヲ軍隊ニ限定スルナカラ他ノ武器ノ場合ノ如ク其ノ使用ヲ軍隊ニ限定スルA) 毒蘒斯戰ハ他ノ武器ト類似ノモノニシテ非常ニ困難

ラ採用セリ 毒瓦斯戰ハ世界戰爭ノ試驗ヲ經該戰爭ニ從事セル各國之

- こ死ノ原因トナル有毒瓦斯ヲ生スル事實ニ注意スルヲ要ニ死ノ原因トナル有毒瓦斯ヲ生スル事實ニ注意スルヲ要(B) 多クノ爆藥ハ通常毒瓦斯戰ト稱セラルルモノト同様
- (C) 平時二戰用瓦斯トナリ得へキ瓦斯ヲ巨量ニ使用スル可能ナリ世界戰爭ニ現ニ使用セラレタル瓦斯中ノ數種ハ平時ニ廣夕使用セラル

斯ル瓦斯ノ製産ヲ制限スルコトハ事實上不可能ナリ斯等ト共ニ此ノ内ニ含ム
「相ノ材料ハ近キ將來ニ使用セラルルニ至ル其ノ他ノ瓦

我委員ノ對案

- 二非ス聯合國ハ自衞上已ムヲ得ス採用シタルモノニシテ毒冤斯戰ハ世界戰爭ノ試驗ヲ經タリト雖モ認メラレタル異ニス 以モノト認メ得サルニ關シテハ米國ノ提案ト全然意見ヲ
- トスル毒兎斯ハ禁止スヘキモノタリ(B) 爆發ノ目的以外ニ特ニ慘酷ニ兵員ヲ殺害スルヲ目的

-534-

其ノ不法行爲タルコトハ之ヲ承認セ

ŋ

問題タリリンラ町ナリトスル理由ナシ全ク別種ノリ之ヲ戦争ニ使用シテ可ナリトスル理由ナシ全ク別種ノバ可能ナルハ事質ナルモ平時ニ於テモ製産巨額ナルニョ(C) 平時ニ於テ瓦斯ノ製産ヲ禁止スル手段ヲ講スルコト

(D) 國交關係逼迫セル際豫想敵國ニシテ協定ヲ無視シ且

コト不可能ナリ 張カ尾斯ノ使川ヲ禁止スルニ同意スヘキコトヲ保障スル張カ尾斯ノ使川ヲ禁止スルニ同意スヘキコトヲ保障スル

- (H) 研究ノ結果ヲ通報スヘキ協定ヲ設クルモ總テノ國

カ

 $\widehat{\mathbf{H}}$

同

- D 同
- (B) 本陳述ヲ正常トセハ本委員會ノ作業ハ無意義トナルヘシ五ケ國間ニ先ツ協定シ之ヲ世界ノ他ノ諸國ニモ適用スルノ法ヲ講スヘキナリ況ンヤ毒瓦斯ノ使用カ不法ナルニ別シテハ世界ノ殆ント總テノ國カ既ニ之ヲ承認シアル
- スルコト不可能トセサルヘシ(F) 毒료斯使用禁止協定違反國ニ對シ制裁ノ方法ヲ講究 535-

(G) 誤解ヲ防キ得ル方法ヲ審議スへ

Ĩ

フ得サル所ナリ

フ得サル所ナリ

フ得サル所ナリ

フ得サル所ナリ

Reference No. 2

VIEW OF THE DELEGATES OF UNITED STATES OF AMERICA,

After a careful study of the subject of chemical warfare, the Committee is of the opinion that :.

- of the world war and were adopted by all nations engaged in that struggle to armed forces as is the case with other weapons through with greater difficulty. Chemical warfare agents stood the test (a) Chemical warfare is a weapon analogous to other weapons of war and it is possible to limit its employment
- Attention is careful to the fact that many high explosives produce these gases that cause death in the same

way as those usually termed chemical warfare gases.

- likely prohibit production of these te come into use at an early date. It is practically impossible to restrict production of such gases include such useful materials as chlorine, phosgene, chloropiorin and hydrocyanic acid gas with others which are Owing to the enormous use of potential warfare gases in peace it is inpossible to take effective steps to gases. Of the gases actually used in the World War several are extensively used in peace-
- a large scale by limitations placed on peace industries such as the dye industry. desire in spite of agreements and the threat of very severe penalties under international law from manufacturing gas on It would only be possible during a period of strained relations to prevent a potential enemy, should be
- at Washington, would agree to, or honour an agreement if made, to abstain from the use of gas. © It would be impossible to guarantee that all the principal powers, some of whom are not even represented

-537-

- serious that no country dare accept the risk of being found unprepared to meet it. essential to manafacture gas to discover the materials necessary for protection. The probable result of the employment of gas by unscrupulous enemy contrary to agreement would be In order to prepare gas masks it is æ
- breaking it. even if an જી It is almost certain that misunderstandings would arise in war as to the nature of gases and explosives and agreement were signed n. good faith one O. other country, through its press, would accuse the other of
- results of their research $\widehat{\Xi}$ There is no possibility of being certain that all countries would abide by an agreement to communicate the

Reference No. 3.

tics We hold views different to those advanced by the American delegates in that owing to the possible calamithe nse of poisonous gases their use should not be viewed in the same light as other weapons.

of circumstances and its illegality has been recognized by all the Allies It is true that chemical warfare was resorted to in the European war but this does not mean it has been recog-Although the Allies had recourse to chemical warfare they were compelled to do; so by the stress

- ਛੋ Except for explosive purposes the use of guses merely with the object of ruthlessly incapacitating men should
- but this circumstance does not constitute any reason that their use in war is justifiable. is true that it is difficult to devise means by which to prohibit the production of gases in time The two are entirely different $^{\mathrm{of}}$
- (d) Approved.
- the more so since almost all the countries **e** If the contentions of the American delegates hold good the work represented at the conference should first map cut a plan that will be acceptable to of the world are convinced of the advisable nature of of this Committee other countries. discountinuing
- agreement might be brought to It would not be impossible ಕ device means by which an unscruptous country employing gas contrary

- died so that the occurrence of such misunderstandings may be prevented. 9 with regard to the possible misunderstandings as pointed out by the American delegates means should be stu-
- (h) Approved

prohibition and prohibition of their production or use are very difficult. mittee should deliberate on the way in which chemical warfare may be discontinued as it really deserves such treatment a humanitarian point of view. In short, it is claimed by the American delogates that the use of gases should be allowed since the restriction and We are, however, of the opinion that the Com-

hibiting the use of gas in warfare as profounded by the American delegates and we regret that we can hardly agree with the impression that the conference has been called upon to consider the way by which the use of gas might be prohibisuitably controlled." <u>z</u>. In his invitation to the Washington conference addressed to various countries President Harding said "It may also suggested by Under such circumstances, it is rather surprising to hear the view based on an impossibility of them. formulate proposals by Replying to President Harding's invitation the Japanese Government said that Japan was in with the suggestion formulated in which in the interest of humanity the use of new the invitation. The Japanese delegates agencies of warfare been under

-539-

第四項 第四囘分科會

瓦斯戦機續ノ可否ヲ論定スルノ要ナク毒兎斯戰ニ關スル協定ヲ作ルニ際シ考慮スヘキ點ト ヲ決議セ 十二月九日汎米會館ニ開催我委員カ準備セル陳述書ヲ各國委員ニ分配シ其 足ル æ ナレハ其 方針ニテ再審議ヲ ナスヘシ ŀ ノ 修正意見ヲ提出シ各國委員 ノ考慮ヲポムル シ モ之ニ同意シ ヤ佛國委員ョリ本委員 テ純然タル技術的意見ノミ 逐條審議シ第 (ハ毒

四三

決員會 養 五 斯 告 表

毒瓦斯分科委員會ノ一般的報告書

毒瓦斯問題ヲ愼重ニ審議セル結果本委員會ハ毒瓦斯戰ヲ規定スル協定ヲ作ルニ際シラハ左記ノ件ヲ考慮スヘキ ト思考ス モ ノナ

ŋ

- 藥ハ通常戰用瓦斯ト稱セラル 委員會、現在ノ處毒瓦斯使用制限ノ根據ヲ共ノ物理的化學的生理的特性ニ遺キ得 ルモノト同様屢々死亡ノ原因ヲナス有毒瓦斯ヲ發生スル事實ニ注意スルヲ要ス ルモノト思考セス又多ク ノ爆發
- ル尾斯ニ關スル研究ヲ禁止又ハ監理スル ヲ豫期スルコト能ハス コトハ不可能ナルト共ニ各國カ該研究ノ結果ヲ報告
- ル商工業ニ付テ一般的國際規則ヲ設クルニ非サレハ不可能ナリ enc, chloropierin, hydrocyanic 酸等近キ將來ニ使用セラルルニ室ルヘキ其ノ他ノモノト觧セテ有用ナル材料ヲ含ム此 能ナリ世界戰爭ニ現ニ使用セラレタル瓦斯中ノ數種ハ平時ニ廣ク使用セラレタリ此ノ内ニハ Chlorine, bremine phose 戦用起斯タリ得へキ莚斯ハ平時巨量ニ使用セラルル カ故ニ之等瓦斯ノ製造禁止ニ有效ナル手段ヲ講スル ヲ得シムルト共ニ夫以上ノ製産ヲ禁シ化學ニ關ス ト不可
- 時製産業ニ制限ヲ加フル 國際法ノ課スル嚴罰ニモ拘ラス大企模ノ瓦斯製造ヲ實行セント欲スル際之ヲ制限スル唯一!方法ハ染料工業ノ如 平時ニ於テ使用スル戰用瓦斯ハ普通使用セラルル材料ト同様ノ化學的構成分ヲ有ス從ラ若 コト ニ依リテノミ之ヲ行フコト ヲ得ヘシ シー関カ協定ヲ無視シ ¥
- 雖宣戰ニ際シ毒瓦斯使用 三槻ス ル國際協定ヲ遵守ス w -3 トヲ拒否ス ıν ŀ + ハ 一般的協定ハ自

(へ) 國際法上充分ニ嚴重ナル懲罰ノ存在セサル現狀ニ於ラハ手段ヲ選ハサル敵國カ協定ニ違背シ尾斯ヲ使用スル スク」ヲ準備センカタメニハ防衞ニ必要ナル材料ヲ發見スルカ爲趸斯ヲ製造スルコト必要ナリ アラムカ其ノ結果ハ頗ル重大ナルモノアルヲ以テ之ニ對スル準備ヲ怠ルカ如キ危險ヲ冒ス國ナカルヘシ蓋シ瓦斯「マ

(ト) 多クノ爆發藥ハ戰用瓦斯ト同様ノ損害ヲ與フル瓦斯ヲ生スルカ故ニ戰用瓦斯使用ノ制限ハ恐クハ戰爭開始ト 多クノ誤解ヲ生ムヘシ 共

for regulating chemical warfare should take into account the following considerations: After a careful study of the subject of chemical warfare, this Committee is of the opinion that any convention

- that frequently cause death as do those usually termed chemical warfare gases cal, chemical or physiological properties, The Committee does not at present see how to base a limitation of the use of poisonous gases on their physiand attention is drawn to the fact that many high explosives produce toxic gases
- is no possiblity of being certain that all countries would abide by an agreement to communicate the results of their It is not possible to prohibit or supervice research to such gases as are used in chemical warfare and there
- include such useful materials as chlorine, bromine phosgene, chloropicrin and hydrocyanic acid gas with others which are hibit production of these gases. to come into use at an early date. Owing to the enormous use of potential warfare gases in peace, it is impossible to take effective steps Of the gases actually used in the world war several are extensively used in peace. ಕ These pro-

It would only be possible to restrict production of such gases by a universal international regulation of commerce, giving to each and all nations the means to provide for their own needs but no

四五

- placed manufacturing gas on a large scale only if limitations of the nature of those mentioned in enemy, should be so desire in spite of agreements and the threat of very severe penalties under international law, rials, in common use. on peace industries, such as the dye industry. Chemical warfare gases which are not used in peace time have a chemical constitution akin to that of mate-The result is that it would be possible during a period of strained relations to prevent a potential the preceding paragraph from
- poisonous gases on its declaration of war the general agreement would automatically be nullified Even if only one Power in the world refused to keep an international agreement ಕ
- of being found unprepared to meet it. absence of a sufficiently severe penalty under international law, would be so serious that no country dare accept the the materials necessary for protection. The probable result of the employment of gas by an unscrupulous enemy contrary to agreement and In order to prepare gas masks it is essential to manufacture gas in order Ħ.
- use of the latter would probably result in misunderstandings immediately on the outbreak of war Since many high explosives produce gases that injure in the same manner as warfare gases, limitations

段ヲ講セハ平時毒瓦斯戰ニ對スル準備ハ必スシモ之ヲ要セサルヘシトノ意見ヲ附加シ且爆藥ハ毒瓦斯ト同様ノ死 スル必要ヲ認メサルモ平時斯ノ如キ瓦斯ノ生産アルカ爲戰時之ヲ使用セサルヘカラストスル理由ナシトスル趣旨ヲ主張 シ米國案ノ瓦斯戰ハ他 セリ伊國委員ハ時々小修正ヲ提議スルモ根本ニ於テ我ト同意見ヲ主張セリ我委員ハ兎斯ノ生産及研究等ヲ禁止又ハ制限 本修正案討議中米國委員ハ殆ト沈默ヲ守リ英國委員ハ專ラ協調ニ務メ本問題ハ到底今囘ノ會議ニ於ラ決定セラル 非サレハ結果ニハ餘リ顧慮セストスルカ如キ態度ヲ取リ佛國委員ハ終始最モ熱心ニ研究シ其ノ正當ト認ムル所ヲ主張 ノ戰爭ト同類ノ者ト認ムル主義ヲ撤退セシメ尙國際法ノ規定ニ依リ協定違反國ニ嚴罰ヲ課スル手

見ヲ採用セシメタリ ヲナス毒兎斯ヲ發生スト云フ原案ヲ緩和シテ爆樂ハ時トシテ毒兎斯ト同様ノ死ノ原因ヲナス毒性兎斯ヲ發生スト云フ意

告ヲ「ヒューズ」氏ョリ送付シ來レリトシテ之ヲ委員ニ分配セリ 該報告ハ毒兎斯ノ使用圣廢ヲ高唱セルモノニシテ毒兎斯委員會ニ於ケル米國委員ノ主張ト圣然背反スルモノナリ 十二月十日卽チ本決議ノ翌日戰時法規委員會議長ハ米國全權諮問委員會カ十二月一日新式兵器ニ關シ研究決議 (第二 セル報

五、右諮問委員會ノ決議ハ我委員ノ主張ト全然合致スルモノニシテ米國委員カ此ノ決議アルニ係ラス全然之ヲ無視シ 節第六款參照) 別個

ヨリ特ニ希望セサルヲ得サルナ 來國際會議ヲ開キ更ニ此ノ問題ヲ討究シ斷然廢棄ニ導ク如ク我政府カ積極的政策ヲ取ラレムコトハ人道上軍事上ノ見地 リト雖米國政府ノ顧問委員會旣ニ此ノ說ヲナシ戰時法規委員會モ亦毒冤斯戰ノ不法行為ナルコトヲ承認セリト言へハ將 ノ見地ョリ瓦斯戰非廢棄ヲ主張セシ動機ト理由ハ之ヲ了解スルニ苦ム本問題ハ華府會議ニ於ラ到底結著ヲ見難キモノナ ŋ

-543-

不

以上ハ毒茏斯分科委員會ニ出席セル帝國委員ノ報告ナルカ右分科會ノ決議ニ拘ラス毒瓦斯全廢カ米國全權殊ニ「ル 第二節第三節ニ之ヲ詳述 依リラ强ク主張セラレ五國亦之ニ贊同シ潛水艦ノ使用制限ニ關スル宣言ト脩セラ新條約トナリタル經過ハ本編第二章